

資料

## 大学と地域社会連携プログラムに関する海外調査報告

— 「未来を切り拓く地域感動大学」を目指す慶南大学校の取組—

林 炫情	山口県立大学
水谷 由美子	山口県立大学
鄭 恩姫	慶南大学校

The report of overseas research on university and society cooperation program  
- An initiatives of Kyungnam university toward "The community-related university for the future" -

Hyunjung LIM (Yamaguchi Prefectural University)  
Yumiko MIZUTANI (Yamaguchi Prefectural University)  
Eun Hee JUNG (Kyungnam University)

本研究は、どのように次世代型の理想的学習環境を構築できるかという大きいテーマに基づき、国際的な視野での比較分析を試み、最終的には本学の「地域との連携」という強みを生かしつつ、どのような「学習環境モデル」を構築できるか、について検討・提言することを目的とする。本稿では、その準備段階として、韓国の慶南大学校の「未来を切り拓く地域感動大学」の取組について紹介する。

The broad theme of this study is to consider how to establish an ideal learning environment for next generation. Based on the theme, the study shows the pioneering examples in the world, and does a comparative analysis of those examples with global perspectives. Finally it suggests how Yamaguchi Prefectural University (YPU) can establish "the learning environment" which includes the strong bond with the local community as YPU's strength. As a preparatory stage of the study, this paper introduces the initiatives at Kyungnam University in Korea toward "The Community-related University for the future".

### 1. はじめに

近年、地域と大学を取り巻く環境が大きく変化するなか、大学は地域に対して地域課題の解決に答え得る地の拠点として存在感を増していくことが求められている。我々は、「どのように、次世代型の理想的学習環境をデザインできるか」という大きなテーマに基づき、海外の大学の先駆事例を調査し、最終的には本学の「地域との連携」という強みを生かしつつ、どのような「学習環境モデル」を構築できるか、について検討・提言することを考える。本稿ではその準備段階として2015年9月18日から21日の間に韓国の慶南大学校を対象に行った海外事例調査について取り上げる。

慶南大学校は、1946年開校以来67年の歴史を持つ

韓国の慶南サンドに位置する大学である。慶南大学校の教育理念は「真理・自由・創造」であり、地域発展を先導する信義ある創造人の人材育成を目指している。2011年からは「ハンマビジョン2030：「未来を切り開く地域感動大学（慶南大学校中長期発展計画（2011-2020）」）」というスローガンのもと、構造改革を通じた地域基盤革新大学に発展するための4大特性化戦略として、①未来志向の経営体制構築、②職業志向の教育課程編成、③学習志向の教育インフラ構築、④参加志向の行・財政的支援として設定し推進している。

特に、2014年からは韓国教育部の「産学連携先導大学（Leaders in INdustry-university Cooperation：以下LINC）事業」の採択を受け、産学親和型大学体

制を構築し特性化分野の競争率の上昇や大学ブランド価値を高めている。このような試みは、産業界に対しては現場実務の人材の確保、企業の力量の強化、そして雇用創出の拡大に、地域社会に対しては地域の活性化と地域機関との連携強化、地域社会の協力活性化を実現していくよう活発な事業の推進にもつながっており、韓国国内でもかなり注目を集めている。

そこで、地域貢献大学としての本学の地域連携の在り方、強いては日本の大学における地域連携の在り方を鑑みるうえで参考になると考え、本研究における海外調査の対象とした。以下では、「未来を切り拓く地域感動大学」を目指す慶南大学校の特徴的な取組について紹介する。

## 2. 「未来を切り拓く地域感動大学」を目指す慶南大学校の取組

### 2.1 グローカル人材育成と産学連携先導大学（LINC）事業

2015年9月15日に、当大学ですでに海外フィールドワークを実施中であった本学学生11名、教員2名と一緒に、LINC事業団を訪問調査した。ここで、慶南大学校の核心事業の一つである産学連携先導大学（LINC）事業の取組内容や地域との連携のあり方などについて話を伺うことができた。訪問調査におけるLINC事業団の主な取組内容と成果は下記に述べる。



図1. 慶南大学校LINC事業団会議室にて、日韓都市再生産学協力交流会参加者

産学連携先導大学（LINC）育成事業は、地域と大学の共生発展をビジョンとして産学連携の支援範囲拡大、産学連携の多様化や特性化、産学連携の持続可能性向上を通じて多様な産学連携先導モデルを創出・拡散させようとする韓国教育部の核心推進事業の一つである（慶南大学校LINC事業団ホームページ：<https://linc.kyungnam.ac.kr/main/main.aspx>）。慶南大学校は、2014年度からこのLINC事業に選定されている（2014.3.1 - 2017.2.28）。そして、LINC事業の選定を機に産学親和型の大学体制改編、産学個別型人材養成、特性化分野の集中育成などを通じ、学生、産業界、地域がそれぞれ満足す

る産学感動型大学として生まれ変わるため、大学の体制を産学連携親和型に全面改編し、産学連携活動が研究・教育とともに大学の主流となるよう様々な活動が展開されている。活動目標は、産業界親和型教育課程、キャップストーンデザイン（capstone design）、現場実習などの実務中心の教育を通じて、学生たちが社会に進出する前に「準経歴社員」化するように育成し、地域産業界の成長はもちろん、地域経済の活性化を同時に達成することを目指している。特に、昔の名声の色褪せた馬山の都心に若い大学生たちの創意的な考えと才能を活用して起業、公共美術、文化公演、体験学習、現場実習などの多様な産学連携の場を開く都市ヒーリング特性化事業を、人文・社会・芸術分野のLINC事業として推進している点で大変特徴的である。

### 産学協力 先導大学(LINC)育成事業のビジョンと推進戦略



図2. 慶南大学校のLINC育成事業のビジョンと推進戦略

慶南大学校におけるLINC事業の領域別運営内容と成果は次の通りである。

#### ① 産業界親和型教育課程：キャリア創造学部

キャリア創造学部は融・複合連携専攻および起業の活性化のため、実務中心の教育課程運営と副・複数専攻の体系的な管理を目的に独立学部として設立された。キャリア創造学部は地域や社会的需要に応え、学生たちの就職に実質的に役に立つ実務型の専攻で構成されており、学生たちは、起業専攻、融・複合連携専攻、企業個別型トラック、準経歴社員トラックで運営している。起業専攻は小商工人起業と技術起業、融・複合連携専攻は生産品質管理専攻、グローバル・フランチャイズ専攻、ビジネスマネージャー専攻、社会的企業専攻、都市再生専攻の5専攻となっている。企業個別型トラックは、KAIトラック、Centralトラック、インナーウェアデザイン（LASHEVAN）人材養成トラック、キムチ専門家養成トラック、建設現場体験型専門人材養成トラック、災害専門人材養成トラック、整形徒手治療専門人材養成トラックの7つのトラックで運営され

る。準経歴社員トラックは医学栄養治療、熱交換器、精密測定、火災避難解析等である。

② キャップストーンデザイン (capstone design)

キャップストーンデザインは、学科(学部)で習った専攻科目及び理論知識を基に、産業体(または社会)が必要とする課題を対象に、学生たちが自ら企画と総合的な問題の解決を通じて創意性と実務能力、チームワーク、リーダーシップを培うように支援する教育過程をいう。現在21学科(部)で全42科目が正規科目に改編されて運営されており、学生たちがキャップストーンデザイン関連科目を受講申請し、チームを構成して遂行したいテーマを選定し課題を申請する。そして、それに伴う一定の金額の支援費を活用して課題を遂行し競進大会を通じて成果物を発表する。この成果物は、さまざまな方法で広報され、特に理工系参加学科では、特許出願が拡大され(16件)、外部競進大会でも11チームが入賞した。非理工系学科で行われたキャップストーンデザインの一部は、昌原市の都市再生と関連し、いくつかの実行事業に適用され、推進検討中のものもあるという。

③ 起業教育支援プログラム

起業教育支援プログラムは創意的な思考とアイデアで夢を実現することができる起業の諸般事項を体系的に教育し、冒険と挑戦意識がある学生らに、起業時の成功確率を高め、就職時、多様な進路の選択機会を持つことができるよう支援するプログラムである。成功起業学、系列教養、起業経営関連4講座運営、起業計画書作成、起業実務教育を実施し、起業専攻学生懇談会、起業トークショー、創造経済のアイデア大会、起業同好会発掘、起業キャンプ、起業メンタリング、起業専攻空間作り、起業シミュレーションなどを実施してきた。その結果、起業公募展大会で5回受賞し、予備起業者事業者登録1件出願、米国Vellano社から設計外注受注(4ヵ月間、\$10,000の収益)、国防ベンチャー大学生公募展銀賞等の結果を得ている。

④ 現場実習

現場実習は、学校で習得した理論を基に現場適応能力の強化及び現場実務状況に適合した遂行能力を培うため、産業体に学生を派遣して現場実習機会を提供することで、今後の就業競争力を向上させるために実施する教育過程である。現在21学科(部)で全42科目が運営されており、学生経歴管理システム運営のためのDB構築、現場実習マニュアル制作、家族会社との連携協力体制の構築、統合管理運営電算システム構築、学生対象職務、安全、エチケット事前教育、産学連携教授の現場訪問指導、現場実

習手記競進大会の開催および手記集発刊などの様々な活動を展開している。その結果、現場実習履修学生は2013年の161人から2014年の613人に380%増加し、参加業者も2013年の66社から2014年の373社に565%増加した。また、現場実習の優秀な成果としては現在2人の学生が英国建築事務所JAIA (Joint Architectural Intelligence Associates, U.K) でグローバル現場実習をしており、イギリスの国際的多様性を理解しながら、柔軟な親和力を習得し、実際の現地プロジェクトデザインに参加して先進の建築技術を習得し、現場でエンジニアとのミーティングを通じた技術的英語会話ができるよう学習する。

⑤ 特性化分野の人材養成

専門能力を表出する機会の提供及び競争力向上に向けたキャップストーンデザインの質的向上と産業現場の需要に合う創意的な人材養成のため、大学が位置している昌原と慶尚南道地域の特性化領域である国防産業、グリーンメカノ、海洋ウェルビン(健康志向)、都市ヒーリング分野の人材養成プログラムを運営している。

2.2 都市ヒーリング事業：都市ヒーリング創造センター

都市ヒーリング事業は、慶南大学の産学連携先導大学(LINC)の育成事業の一分野でもあり、都心の空洞化や商圏の低迷に陥っている昌原市区馬山地域の旧都心を対象に都市再生・ヒーリングの実効性の向上、商圏の活性化、さらには地域経済活性化に寄与するために人文社会芸術・体育分野の先導的な「地産学」協力モデルを作り出すために実施している事業である。このため、一方では慶南大学の学生たちの創造的な都市ヒーリング関連の様々な活動プログラムを誘致・支援することにより、都心に若さを吹き込み、もう一方では都心再生関連団体と様々な協力事業を展開している。都市ヒーリング事業は都市ヒーリング創造センターで進めており、馬山旧都心にセンター事務室を運営している。都市ヒーリングと関連する事業は大きく「都市ヒーリング地産学ネットワーク」と「都市再生・ヒーリング分野」「人材養成事業」に分けられ、これについての紹介は以下の通りである。

① 都市ヒーリング地産学ネットワーク

都市ヒーリング地産学ネットワーク分野では都市再生・ヒーリング関連専門家招請フォーラム開催、幸せな人文学教室(市民団体と協力プログラム)、市民対象のストリート大学の運営などの都市ヒーリング創造フォーラムプログラムと、都市ヒーリング分野の産学協議体ネットワークプログラム、都市

ヒーリング・フェスティバルなどを開催している。

## ② 都市再生・ヒーリング分野人材育成

都市再生・ヒーリング分野の人材育成分野では、青年作家アカデミー、都市ヒーリング現場実習、都市ヒーリング関連人材の養成などが行われている。

### 2.3 大学－都市再生および商圏活性化のための幸せな同行「3E小道旅行」

慶南大学校が位置する昌原市馬山地域（旧 馬山市）は過去、全国で7大都市と呼ばれるほど社会経済的に発展した地域であった。しかし、近隣の計画都市で人口が流出し、地域内の重要な収入源だった外国系企業といくつかの大規模企業が安い労働力を確保するため東南アジア地域に移転していくなどの様々な理由で馬山地域は都心の空洞化現象と商圏の低迷を経験することとなった。

そこで、昌原市と昌原市午東洞倉洞魚市場商圏活性化財団は公営駐車場の設置、アーケード設置、空き店舗を活用した倉洞芸術村造成事業などの施設現代化事業と文化アカデミー、ブランドデザイン開発、ホームページおよびモバイルアプリの構築など経営改善事業を並行し、多様な商圏の活性化事業を推進してきている。そんな中、都市再生と商圏活性化に関連したハードウェア事業と共に、人々の関心と参加を促進することができるソフトウェアが必要な視点で慶南大学校とともに3E小道旅行を始めることとなった。

3E小道旅行は、昌原市商圏活性化財団が主催し、慶南大学校生涯学習研究センターが主管し、2012年から現在まで継続されている。3E小道旅行は、児童・青少年に我々地域の歴史と文化を思う存分味わって学んで出会うことができる3E、すなわちEducation（教育）、Economy（経済）、Experience（体験）活動で進められている地域愛体験活動であり、これを通じて伝統市場を体系的に学び直接市場を駆け巡り、芸術体験活動を体験することができる機会を作ってあげようというものだ。そして、慶南大学校では大学生に対し地域社会と連携したボランティア活動に参加するようにし、地域に対する関心と愛する気持ちを鼓吹させ、今後、地域の中で多様な形の雇用を探索して就職・起業に連携できる機会を設けようというものである（3E小道旅行の運営に関連しては、林・森原編著（2016）『地域愛が地域を元気にする』を参照）。

3E小道旅行事業成果は次の通りである。3E小道旅行が2012年から約4年間行われる中で、約8,000人以上の成人や青少年が参加し、今では参加を希望する小中高等学校が益々増え、事前予約を申請したりしている。また、2年連続、3年連続で参加する

学校が増えており、これはプログラムに対する参加満足度が高いということを物語っている。また、参加した学生は伝統市場と我々の地域に対する新たな知識を得るとともに、関心を持つようになったと言っている。ほとんどの参加者は、今後の再訪問の意思を持って帰る場合が多い。実際に3E小道旅行参加後、学生たちが週末を利用して再訪問するケースも増加している。さらに訪問学校の引率教師たちは3E小道旅行が子どもたちに韓国の伝統を経験する機会を与えることで、情緒育成に役立つと述べている。

事業のミッションを通じて、積極的な参加を誘導し、協調性を高め、学生の進路探索に役立つプログラムである。慶南大学校の学生からは、支援活動家としてプログラムを進めながら、自分たちも地域に対する関心や地域活性化に対する参加意志を持つようになり、今後はボランティア活動や就職連携活動を地域社会と連携して持続していきたい、また今後も引き続き参加したいと感想を述べている。なお、本プログラムには、本学の学生も2014年度から3年連続でスタディーツアーとして参加しており、本学の学生にとっても大変有益で実践的な学びの場となった。本学の学生の活動報告及び成果については、林・森原・吉田（2015）、林・森原・鄭（2016）を参照してもらいたい。



図3. 3E小道旅行スタジオにて、2015年度日韓大学生交流会の参加者

### 2.4 地域共同体の変化や成長のための実践研究の科目運営

慶南大学校教育学科では、地域社会教育論という科目を通じて大学生たちが直接地域社会を対象に実践研究プロジェクトを実施する活動を行っている。この科目では地域社会教育の歴史的背景と意味に対する基礎的理論の講義とともに幸せな地域社会づくり、地域共同体の変化や成長のための実践研究をチーム別課題として提示し、教授とともにチーム別ワークショップを行う。本実践研究のための核心質問は、①私たちが生きていく地域社会の中にどのような社会的文化（問題、現象）があるか？②このような社会的文化（問題、現象）によって発生する問題にはどのようなものがあるのか？③このような文

化と問題を解決するための実践事業にはどのようなものがあるだろうか？（具体的な事業、プログラムなど）である。

このような実践研究遂行過程には、まずチーム別に自由に①研究テーマを定める。例えば、馬山地域の都市再生事業、昌原の自転車活性化事業、昌原の観光事業、伝統市場の活性化事業、統合昌原市の住民統合問題などがあつた。次に②研究のスケジュールを立て、③チーム別に資料収集のための現場リサーチを行う。各チームが決めた研究テーマの基礎資料を確保するため、インターネットを検索したり、機関を訪問して関係者とインタビューを進めたり、市民らを対象にアンケート調査やインタビューを実施したりもする。また関係専門家を訪ねて助言を求めたり、チーム別のアイデア戦略会議を行ったりもする。そして④上記で提示した3つの核心質問を基に報告書を作成し発表資料を制作する。最後に⑤授業時間にチーム別発表を行い、チーム別に研究の観点と成果を報告し他のチーム員との質疑応答の時間を持って、最後に出席者たちのコメントを受ける。大学生たちが地域社会を対象に、実践研究プロジェクトを実施する活動を通じて地域に対する関心と愛情を持つようになるだけでなく、グループ活動を通じて協調性と共同体意識を持つようになり、分析力と論理的思考力を向上させていくことにも大きく役立っている。

## 2.5 高大連携：地域の中高校の連携進路職業体験プログラムを常時運営

慶南大学校入学課では地域内の中高等学校と連携し、進路職業体験プログラムを常時運営している。これは中高等学校で義務的に行わなければならない進路職業教育に対する要求と、大学は新入生誘致のための大学のイメージ向上や大学の多様な教育環境と資源を活用し、その地域社会に奉仕できる機会の確保などの相互協力が必要かつ適切に調和を成して成功的行われているプログラムである。

進路職業体験プログラムの運営手続きはまず、希望する中高等学校で、慶南大学校ホームページを通じて申込書を作成して提出する。申込書には直接体験してみたいことを希望する学科を選択して申請することができる。プログラムが運営される日には30分程度の学校紹介をして希望する学科（部）に移動し、専攻別の体験プログラムに参加することとなる。この時、専攻別の体験プログラムは当該学科の大学生たちと教授が直接進行する。これを通じ、大学生たちには進路体験教育、参加者たちを直接引率してプログラムを進めるなどの大学の先輩としての役割を遂行できる機会を与えリーダーシップを育てる働きもする。進路職業体験プログラムは地域内で人気

高く、満足度も高いため参加希望学校がどんどん増えている状況である。

## 3. 問題点と今後の課題

本稿では、慶南大学校が展開している特徴的な地域連携プログラムの取組を取り上げ、その内容と成果を中心に報告した。上述した取組は確かに一定の成果をあげていると評価できる。ただし、これらの成果を一回の行事ではなく、持続可能なプログラムの確保と維持のためには、事業費の獲得を含め、より組織的で効果的な管理システムの構築が必要であることはいうまでもない。最後に、「未来を切り拓く地域感動大学」という明確なビジョンを設定した慶南大学校がさらなる改革を進めていくために必要とされていることを、現場の担当者の指摘を踏まえ、今後の課題として述べておく。

一つ目は、予算が付いている間は色々と手厚い支援が可能であるが、政府からの経済的支援がなくなつてから現在のプログラムがどこまで維持できるかという問題である。本取組が一過性の環境整備にとどまることなく、継続的かつ発展的に拡充していく必要がある。そのためには、例えば、学生の就業及び起業教育においても、学びの提供の場で終わるのではなく、地域の産業界とより密接に連携をとり、仕事の創出を含め実質的なバックアップができる体勢と環境整備を行う。二つ目は、大学生が参加する地域活性化のためには、地域住民の理解も不可欠である。大学は大学生に対しては、地域が抱えている諸課題を彼らの身近な問題として認識させるための良質のプログラムを開発し、継続的に提供する。そして地域に対しては、大学生が自発的で主体的に、そして実践的にその課題に取り組むための学びの環境の提供を呼びかけていく必要がある。三つ目は、大学組織内における産学協力や連携の取組についての温度差である。特に人文社会分野の教職員の産学協力に関する理解がまだ十分とはいえない。そのため、大学がより組織的に人文社会分野も取り組みやすい環境を構築する必要がある。

以上の問題は、慶南大学校だけではなく、本学をはじめ多くの日本の大学が抱えている課題でもあるだけに示唆する点が多い。これらの課題を踏まえ、慶南大学校の取組を本学でも展開しうものかどうか、今後さらに検討を深めていきたい。

## 謝辞

本調査の実施にあたり慶南大学校LINC事業団のKang, Jaekwan団長と都市Healing創造センターのSeo, Ickjinセンター長に大変お世話になりました。また、本稿作成においても貴重な情報をご提供いただきましたこと、ここに感謝の意を表します。本研

究は平成28年度山口県立大学創作活動（国際共同研究型）「次世代型高等教育の環境をデザインする－世界的スタンダード構築に向けた国際比較研究－」（代表：齊藤理）の助成を受けて行われたものです。

#### 参考文献

- 林炫情・森原彩・吉田琴美（2015）「グローバル地域マインド育成」プログラム開発の試み－海外フォールドワークを通じて育む「3C（Cooperation, Creativity, Communication）」マインダー」『山口県立大学学術情報[国際文化学部紀要第21]』8. 55-63.
- 林炫情・森原彩・鄭恩姫（2016）「地域活性化に向けた取組みと実践- 山口県立大学の「青い鳥プロジェクト」の事例を通して-」『山口県立大学学術情報[国際文化学部紀要第22]』9. 119-126.
- 林炫情・森原彩編著（2016）『大学生と地域の連携街づくり-地域愛が地域を元気にする（日韓協働街づくりプロジェクト）』東洋図書
- 慶南大学校（2015）『2015年学部教育先進化先導大学事業』慶南大学校
- 慶南大学校LINC事業団ホームページ<https://linc.kyungnam.ac.kr/main/main.aspx>